



薬と食事の関係について

ほとんどの薬は、食後の服用になっています。これは、飲み忘れを防ぐためと食事と混ぜることによって胃への負担を減らす目的があります。しかし、食後以外に飲む薬もあります。



早朝空腹時	骨粗鬆症薬のビスホスホネート剤
食直前	糖尿病薬のαグルコシダーゼ阻害剤、グリニド剤
食事中、食直後	リン酸吸着剤
食間	クレメジン®、ブイフェンド®、ピラノア®、イトラコナゾール内用液 など

これらは、用法と違った時間に飲むと効果が出なかったり、副作用がでたりする場合があります。また、降圧剤のテルミサルタン錠は食事の影響を受けるので、服用時間を変更する場合は注意が必要です。

薬と食事の注意する相互作用について

一緒に飲食すると薬の効果が強く出たり、弱くなったりする食材を紹介します。

不明点は、薬剤師
に相談しましょう!



薬の効果が減弱するもの

- 抗生物質とミネラル(カルシウム、マグネシウム等)を多く含むもの
主な抗生物質:テトラサイクリン系、キノロン系、セフェム系
- ワルファリンとビタミンKが含まれる食品



ビタミンKを含む食品	ビタミンKの量
納豆、クロレラ、青汁	かなり多い
パセリ、しそ、明日葉、モロヘイヤ、春菊、バジル	多い
ほうれん草、小松菜、にら など	やや多い

血液を固まりにくくする
(血栓塞栓症の再発予防)



薬の効果が強まるもの

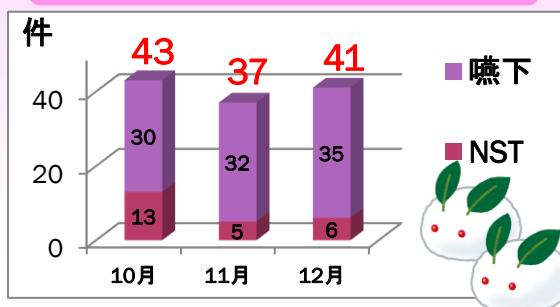
- グレープフルーツジュースと飲み合わせのよくない薬があります。
例:Ca拮抗剤、テグレトール®、プレタール®、アトルバスタチン、レグパラ®、レミッチ®、プログラブ® など
- 薬とアルコールの併用は、意識がなくなったり血圧が下がりがすぎたりすることがあるので、避けましょう!

たばこについて

- 喫煙中に血中濃度が低かったものが、禁煙することで血中濃度が上がり中毒になる場合があります。
例:テオドール®、ジプレキサ®、ルボックス®、テルネリン®など

担当: 薬剤師 九鬼由忠

月別栄養サポートチーム加算件数



①苦味について

小児用ドライシロップなどは、酸味を含む嚙下補助ゼリーやジュースで服用すると、薬の剤皮が溶解し、主薬が溶出するため苦味が出ます。酸味の含まない物で、服用するようにしましょう。



酸味のある飲み物

②インスリンのこれからについて

現在インスリンは、注射しかありませんが、研究開発が進められており、将来内服薬ができるかもしれません。

